

卒業生8人が教壇に

長生高で「天夢塾」1年生に体験語る

将来、日本を背負う人材

と地域リーダー育成を目指すプロジェクト「天夢塾」が、長生高校（見田豊茂校長）で開かれた。歴代の卒業生8人が講師として教壇に立ち、1年生329人に貴重な体験を披露した。

弁護士の前首良夫さん（1952年卒）が「母校から私がいただいたもの」と題し講義。「高校時代に学んだ基礎なくしては現在の自分はない。生徒たちに『自信をもってもらいた

い』と話し掛けた。

このほか、石川正徳さん（56年卒）、伊東丈夫さん

（71年卒）、仁茂田弘さん

（同）、大金陽和さん（76

年卒）、山口真矢子さん（87

年卒）、矢部順子さん（97

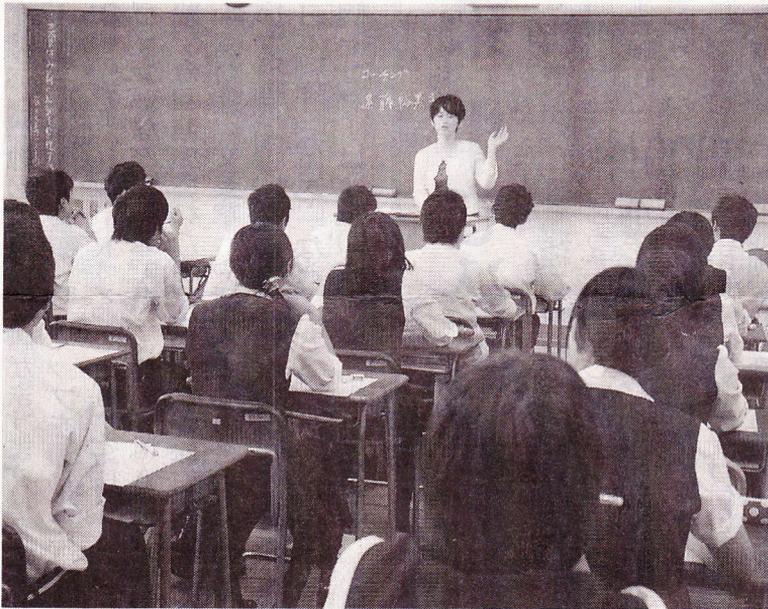
年卒）、遠藤裕美子さん（2004年卒）が、それぞれ進路や人生などについて話

した。

コーチングインストラクターの遠藤さんは「ブレーキをかけないで、自分の行きたい方向に進んでいくことが大切。どんなものでもいいから、自分の軸をもってほしい」と呼び掛けた。

現在フリーのアナウンサーとして活躍する矢部さんも「興味のあることはどんどん追求する。自分にできるものを探し行動を起こす」ことの大切さを訴えた。

塾名は、明治期に東京帝國大学医学部を卒業し、茂原市上永吉の眼科医院、回春堂（現「永吉の眼科」）を継承した千葉天夢さんの名前に由来する。千葉さんは長生高校の前身である私立大成館の初代館長を務め、長生郡の教育黎明（れいめい）期を支えるなど幅広い分野で地域社会に貢献した。



1年生を対象に開かれた長生高校の「天夢塾」